

# 「学び合い、高め合う子どもの育成」～子ども主体の授業をめざして～

## 【下中小学校 学校教育目標】

### 新しい時代を「生きる力」と「郷土を愛する気持ち」を育む

令和3年度

- 主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の見直し
- 学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりと実践

「主体的」とは？

令和4年度

- 全ての根本となる「子ども主体」を捉え直す。
- 子ども主体の授業づくりを意識した実践
- 主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の明確化

## 【めざす子ども像】

### 課題に対する自分の考えをもち、他者との関わりを通して自分の考えを広げる子

【6年生】「やまなし」作品の世界をとらえ、自分の考えをもちよう

初発の感想をもとに「なぜ題名が『やまなし』なのか。」という、子どもたち自身が考える必然性のある学習課題をもち、その解決を図った。自分なりの読みを深めていくために、想像図を描いたり、文中の言葉や表現を書き込んだりしながら、課題に対する自分の考えを意欲的にまとめる様子が見られた。

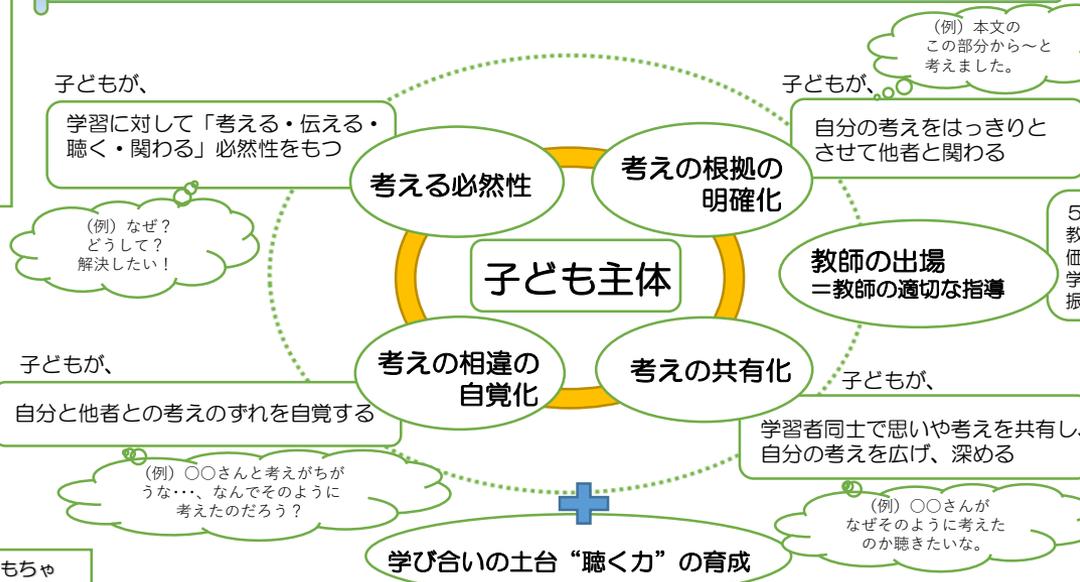
【1年生】「じどうしゃくらべ」「じどうしゃずかんをつくらう」説明する文章を読もう 説明する文章を書こう

導入で身近な車の仲間分け活動を行ったり、児童の意見を取り入れながら単元計画を組み立てたこと、児童の意欲が向上した。画像や動画を見せたり具体物を触らせたことで、児童が同じ土台で話し合いに参加できていた。スモールステップで書く学習を進めたこと、書くことが苦手な子どもも図鑑作りの文章を自力で書くことができていた。

【2年生】「馬のおもちゃの作り型おもちゃの作り方をせつめいしよう」説明の仕方に気をつけて読み、それをいかにして書こう

1年生に「おもちゃの作り方」を伝えるという言語活動を設定し、「年下の児童にも分かるように伝えよう」という明確な学習課題をもった。そのためにどのよう伝えたら良いかを必然的に考えることができた。表現の仕方を工夫する際にはICTを活用したり、より良い内容にするために反だちからアドバイスをもらったりと意欲的に取り組めた。

## 「子ども主体の授業づくり」を支える5要素



(例) なぜ？ どうして？ 解決したい！

(例) ○○さんと考えがちがうな…、なんでそのように考えたのさ？

(例) 本文のこの部分から～と考えました。

(例) ○○さんがなぜそのように考えたのか聴きたいな。

【今後に向けて】

今年度は、これまでの研究主題にある「主体的」という言葉に目を向け、「子ども主体」について改めて捉え直し、それを本研究の根幹と位置づけた。そして、子ども主体の授業づくりをめざし、5つの要素（考える必然性、考えの根拠の明確化、考えの相違の自覚化、考えの共有、教師の出場）を意識した授業提案をしてきた。また、学び合いの土台となる「聴く力」を育てるため、子どもたちの発達段階に応じた指導の在り方を考え取り組んできた。「子ども主体」を研究の柱とすることで、教師主体の授業から脱却し、子どもたちが生き生きと学習する姿を見ることができた。今後も「子ども主体」を意識した授業を展開していきたい。そして、将来、子どもたちが主体性をもって生きぬくための力を育めるよう研究を進めていきたい。

## 【校内研修】 横浜国立大学 永池啓子先生

～「子ども主体」を願い、自らが変わることにも努め、学び続けるTEAM下中小学校～  
令和2年2月3日は横浜港にダイヤモンドプリンセス号が着岸した日です。まさか世界中にパンデミックが巻き起ころうとは・・・その年の10月、初めて下中小に伺いました。「対話」も盛ならない時でした。しかし、真摯にまっすぐな目をされた先生方の姿が鮮やかに思い起こされます。大村はま先生の「仏様が、ちょっと指で・・・」（灯し続ける言葉/小学館）を紹介しました。ここから3年「子ども主体」の授業へ、自らの捉え方をリセットし、目指す子ども像を明確化させ、果敢に学び合い、研究に動かし続けてきました。広く深い教材研究、オンラインを使ってのPWC (point/work/check) シート等具体の検討、どの子にも考えをもちさせるため先行授業を通し柔軟に改善していく体制へと。そして、「子ども主体の授業づくり」5要素に焦点を当て、深い教材研究による豊かな単元の導入を図ることでの「必然性」既知と新知を明確にすることで「ずれ」を、言葉や文を指しながらその「根拠」を友と「共有」を図ることでの新たな発見と深い学びへと。昨年11月には中島校長先生筆頭に大村先生の大会への参加、そして、全国online講座へ自主的な参加と、正しく「子ども主体」の授業への願いの土台には、貪欲に学ぼうとする先生方の主体的な学びの姿がありました。教師という人たちの尊さを見ました。子どもが幸せに未来を生き抜くために、「為して学ぶ」ということ、AIに負けない考える力をどの子にも付けていきたい。さらなるTEAM下中小の学びに期待します。

【5年生】「たすねびと」物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう  
読みの視点を「綾」に限定し、叙述をもとに自分の考えをまとめられるようにした。自分の考えを明確にするために文型を用い、ワークシートを活用して、考えとその根拠を視覚化した。その結果、叙述に基づいて読み取ることができた。また、文型を用いることで他者との違いがわかりやすくなり、意欲的に話し合うことができた。

5つの要素を意識した授業づくり  
教師の出場＝指導のねらいや意図の明確化・進行・受容・価値づけ・話し方聴き方の指導・困り感の把握と助言・学習形態や場の設定・考える時間の保障・評価の工夫・振り返りの充実など

【3年生】「すがたをかえる大豆」  
れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかにして書こう  
毎時間の授業で、自分の考えの根拠を明確にして書くことを意図的にを行い、児童の考えを教師が把握するようにした。  
次時には、教師が見取った個々の考えを元に授業を構成することで、自信をもって自分の考えを示す児童の前向きな姿を見ることができた。

【4年生】「ごんぎつね」  
気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう  
読みの視点を「ごん」に限定して読み進めることで、児童が中心人物に寄り添った読み取りを行うことができた。  
しっかりと自分の考えをもち、友だちの考えを知りたいという思いを高めさせ、主体的に学習に取り組むことにつながった。交流を通し、自分の考えを広げ、深めていく様子が見られた。



各学年指導案